

令和6年度（2024）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校穴吹ビジネスカレッジ

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 学校関係者評価委員会は、令和5年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和6年11月26日

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて専門学校穴吹ビジネスカレッジの自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、専門学校穴吹ビジネスカレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

| | |
|--------|----------------------|
| 水兼 博士 | 香川県立琴平高等学校校長 |
| 今井 淳一 | 株式会社J R 四国ホテルズ 事業統括部 |
| 市原 克美 | ハウス美装工業株式会社 総務部 |
| 上枝 洋介 | 本校卒業生 |
| 細谷 早智子 | 本校在校生保護者 |

(学校教職員)

| | |
|--------|---------------------|
| 佐戸 三千代 | 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 校長 |
| 壽福 英尚 | 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 副校長 |
| 馬場 隆信 | 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 教務部長 |
| 岡田 大海 | 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 教務課長 |

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和6年11月26日(火) 14:00~16:00

開催場所 学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ テクノホール

4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和5年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」、と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

5. 副校長より本校を取り巻く状況について説明（自己評価報告書より）

・学校運営

令和5年度から学内業務について、ワークフローシステムを導入し申請書・報告書・勤務カードが電子化し、ペーパーレス化を進めている。

・教育活動

教育課程編成委員会を年2回開催し、カリキュラムの改訂、改善を行っている。

学生へのキャリア教育を充実させるため、教職員向けにキャリアサポーター養成講座を実施し、様々なアプローチから学生が前向きにキャリアを捉えていけるようにしていく。

授業改善の取り組みとして、前期、後期に学生の授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を教員にフィードバックすることで学生ニーズに即した授業の改善に繋げている。さらに穴吹教育総合研究所よる教員の授業モニターにより、そこから見える改善点を教員にフィードバックをすることで教授力の向上を高めている。

インターンシップでは必ず外部による評価を実施している。

定年退職者が増えてきているため、人材確保・育成が今後の課題となる

教員の能力向上に向けて、年間15時間以上の研修を受講できるように学園として取り組んでいる。

県内の他の専修学校・各種学校と協力、連携した教育ができていないので、改善が必要である。

・学修成果

関係業界への就職については教務とキャリアセンターが協力し、業界就職率向上に努めている。

（令和5年度業界就職率92.9%）

・学習支援

より高度な学習・研究ができるよう大学等との併修又は接続が可能な体制などを引き続き検討する必要がある。

令和5年度から学生相談の窓口として校内カウンセラーを設置し、個別面談を通して学生が抱えている悩みに対してヒアリングできる体制を整えている。

Hyper-QU アンケートによる支援が必要な学生を事前に把握し、学生指導の参考資料や学生が充安心した学校生活を送れる体制づくりに努めている。

保護者総会、保護者支部会を毎年実施し、保護者とのコミュニケーションを図っている。

卒業生への支援体制ができていない為、改善が必要である。

・教育環境(評価 A)

コロナ前と同様に優秀生海外研修や各種海外研修を実施できるようになった。

・学生募集と受け入れ(評価 A)

社会人の学びなおしを目的に企業ビジネス学科が教育訓練給付金制度の認定を受けている。

・財務(評価 A)

黒字経営、健全な運営が出来ている。

・法令等の遵守(評価 A)

・社会貢献・地域貢献(評価 A)

通常の出前授業以外に、文科省事業である「専門学校と高等学校との有機的連携プログラム開発と実証事業」において県下8つの高校と連携し、「総合的な探求の授業」で指導、助言を行っている。

・総括(評価 A)

自己評価結果(評価 A)

<令和5年目標>

入学者69名に対し31名のため、目標未達成

退学率3%未満に対し1.3%のため、目標達成

C1企業内定率40%に対し50%のため、目標達成

<令和6年目標>

入学目標69名

退学率3%未満

就職希望者2月全員内定の達成

6. 添付資料について説明

①自己評価報告書について

本校自身で行った自己評価について外部委員の皆様から意見をいただきたい。

ビジネスカレッジの評価は「A」であった。

②カリキュラムおよび検定、就職実績報告について

③保護者アンケート結果について

7. 外部委員より意見・質問

①水兼委員

専門分野を学び、資格取得に取り組んでいるがその実績について保護者にアピールできているか。

看護などの専門分野であれば、高校生にイメージさせやすいが、不動産分野は高校生に馴染みがないため、職業教育をしていくことが必要である。

退学率1.3%は低い数字のため学生指導を丁寧に行っていることに感心している。

発達障害など障害を抱えている学生向けの配慮はしているか。

→ホームページでの情報公開、保護者アンケートで保護者向けに学校の取り組みを知っていただく機会を設けている。

合理的配慮が必要な学生の対応は順次学則にも定めて整えていく。

②今井委員

毎年、穴吹カレッジの生徒が弊社に入社してくれているのは、ありがたく感じている。就職活動・採用活動の環境が激変し、県外就職も多くなってきている時代ではあるが、引き続き、地域に根差した

穴吹カレッジと弊社との関係を継続させていきたい。

卒業生は真摯に業務に取り組んでおり、特に留学生はガッツにあふれて、穴吹カレッジの教育の賜物と言える。ホテル業界の事情になるが、留学生の在留資格「技術・人文知識・国際業務」では、ホテルにおいては「フロント業務」に制約されてしまう。弊社のホテルは、宿泊以外にも、レストラン、宴会、宣伝、総務経理など様々な業務があり、意欲ある留学生には、ほかの分野にもチャレンジしてほしい気持ちがある。それが可能であれば採用可能枠をもう少し増やすことが出来る。「特定技能」の卒業生様がいれば、ホテル業界においては、より幅広にご活躍いただける可能性が広がる。

③市原委員

自己評価報告書の質問項目は変更可能か。

項目ごとの達成、未達成は資料から確認できるが、学校としての最終目標はあるか。

卒業生の動向について就職先の定着率調査、在籍確認はできているか。

自転車の保険加入ができていない学生について加入をあっせんする取り組みはあるか。

→評価は香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式の基準に基づいて行っているが項目の追加修正は可能である。

就職担当の職員が就職後3年間は定着率調査を実施しており、今後も継続していく。

自転車登校をする学生には保険加入をしている事を許可条件に駐輪許可証を配布している。

自転車保険未加入の学生に保険加入の紹介は入学時のオリエンテーションでしているが、その後再度の呼びかけはしていない。

④上枝委員

学生の授業評価アンケートはあるが、教員向けのアンケートはあるか。

ビジネスカレッジの入学生が減少しているが、対策はしているか。

→教員のアンケートは実施していない。

入学生減少の改善策として、高校との関係強化、実績等の認知度を上げる対策をしている。高校生のニーズを踏まえて商業高校での簿記講座を実施し、さらに公務員講座の実施に向けて高校教員と打ち合わせをしている。実績等の情報発信については内定情報や学生情報を高校側に伝えて取り組みの認知度を上げている。さらにSNSでの情報発信にも努めている。

⑤細谷委員

学生を成長させていく上で教育と家庭の両輪が上手にかみ合うようにしていくことが必要である。

保護者が敷く将来へのルールまたは学生が自由に考える将来へのルールについて、学校が学生とのコミュニケーションを通してアドバイスをしながら学生が主体的に考えていけるようにして行くことが必要である。

インスタグラムなどのSNSを使いながら、学校での取り組みと情報発信を同時並行でしていくことが必要である。

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

以上